

建具

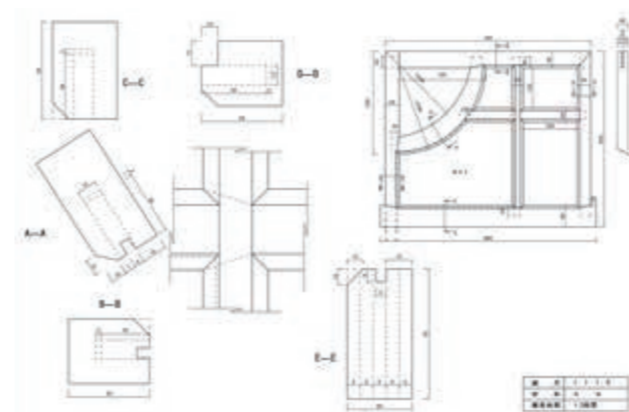


競技について

競技時間: 2日/12時間

会場に用意された素材を用いて、図面に従い課題を作成します。はじめに原寸図を描き、与えられた材料を電動工具でR型棧(曲線の骨組み)を加工。角度の付いた斜め棧銅付きを原寸図から写し取りながら作業を進め、ミリ単位の世界を競います。競技時間は2日間で12時間。昨年同様、今年の課題でも国際大会に向けてR型棧を取り入れたヨーロッパ風のデザインとなっています。

2020年大会競技課題



参考: 第58回技能五輪全国大会 課題図

競技職種と生活との関わり

建具とは、建築物の開口部に設置される、開閉機能のついた仕切りのことです。家屋の壁に取り付けて屋外と屋内を仕切り雨風を遮る玄関のドアや窓、屋内を部分的に仕切り個室を作る障子やふすま、収納スペースを確保するためのクローゼットの折れ戸や台所の収納用の扉など、建具がない住宅はありません。最近ではレトロな木製建具に魅力を見出す人々も増えてきました。新品の建具の製作だけでなく、すでにある建具の修理や調整なども、建具職人の仕事です。



木工技術の高みを目指し ミリ単位の世界を競う

建具とは、建物の出入口や部屋の間仕切り、窓、和室の襖や障子などのこと。主に、建物の外部に使われるものと、内部に使われるものの2種類に分類されます。外部の建具は、建物への出入口を風雨から建物を守り、外観を綺麗に整える役割。一方、内部の建具は、個室の出入口や大部屋の間仕切り、クローゼットの扉や和室の襖などで役に立っています。競技では、原寸の図面から手工具や電動工具を用いて加工を施すため、数多くの道具から何をを使うべきか瞬時に判断する能力と、それを使いこなすための高度な技術が必要です。



POINT

R型棧の加工に注目! 奥深い建具の技能を目に焼き付けて

建具は、細かな加工が多いため、一つひとつの工程を丁寧にを行う必要があります。作品の見栄えや内外寸法、加工内外部の接合、ねじれ、矩の手が評価の対象となります。中でも、障子などで使われる「組手腰」は斜め柄と中束の接合が難しく、一番の技術の見せ所です。そのほか電動のハンディルーターを使ったR型棧の加工や、ルータービットを使ったホゾ加工など、電動工具を用いた巧みな道具の使い方にも注目です。

木下 和幸 主査
有限会社木下建具工芸



2020年大会の成績

第58回技能五輪全国大会出場時点 / 2020年12月

金	(有)高橋加工部	岡本 巧さん(北海道)
銀	山口建装(株) 愛知県立豊橋工業高等学校	山口 光樹さん(鹿児島県) 上原 渉さん(愛知県)
銅	北海道立帯広高等技術専門学院	鳥井 裕也さん(北海道)